

令和2年度1学期 建築科の取り組みNo. 5

☆建築科 講演会「表具について」☆

松清堂 岩崎先生、細矢先生から日本の建築文化である障子について学びます。

生徒たちは、障子を見たことはありますが、はり替えたことの実験は全くありません。今回、先生は、昔ながらの和紙を用意してきてくださいました。和紙の説明の後、丁寧な技を見学する時には、静寂な時間が流れました。



建築科生徒1～3年生まで、合同で行いました。



茶室の障子などで使われる、「千鳥はり」について知りました。

大切に和紙や道具を扱われます。



古い障子紙をはがすときも丁寧にやりました。



先生は、定規を使用しなくても、必ず同じ寸法に和紙を、はり合わせることが出来ます。



使用する「のり」は、先生に調整してもらって、生徒たちも、はってみました。

使用する和紙の大きさを考えるときには、昔ながらの、尺・寸を使うことを知りました。



先生から、「使う場所に、入れて、動きを確認するまでが仕事」と言われました。上手く納まらないところは、先生に助けていただきました。



↑ はり替え前



↑ はり替え後。空間が変わりました。